

第6回九州地区特別支援教育研究連盟「宮崎大会」実行委員会
平成30年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

－ 第2回理事会 －

議事録

日時：平成31年2月8日（金）

午後1時30分～4時

会場：みなみのかぜ支援学校

司会：山之口教頭

1 開会行事

(1) 会長あいさつ（会長 みなみのかぜ支援学校長）

九特連宮崎大会は、皆さんの協力のおかげで大成功に終わることができました。今日は九特連の総括、反省、次年度に向けて検討をお願いします。知的部会理事会では、今後の知的部会のあり方について具体的に提案します。忌憚ないご意見ををお願いします。

(2) 配付資料確認

会次第、大会終了報告、記念講演保護者アンケート
H30授業報告、集録誌、封筒（理事の方）、記念品

2 第6回九特連宮崎大会実行委員会（終了報告書）

(1) 平成30年度九特連研究大会「宮崎大会」について（終了報告書）

① 大会参加者数（p.1）西山T

参加動員計画に基づき、各地区、各学校で声かけをしていただき、500名を超える参加があった。御協力ありがとうございました。分科会の参加人数にばらつきがあり、内容やテーマ設定に課題が残る。

② 事業報告について（p.2～）森本T

H28年度から事務局を立ち上げ始動。知的部会理事会の中で、進捗状況をお知らせしたり、ご意見をいただいたりしてきた。

前回26年度全特連大会からあまり間がなかったため、積立金が少なく、資金集めに御協力いただいた。

3月上旬に鹿児島事務局に業務内容の引き継ぎを行う予定。

③ 平成29・30年度会計報告（p.6～）柴下T

平成29年度から大会会計が動いている。

平成31年1月末までの報告。2月に利息が入る予定

今後、集録誌郵送料と鹿児島引き継ぎ旅費の支出あり。

監査は29年度分と一緒に3月末に行う。

④ 残金について 西山T

当初見込んでいた収入を大きく上回る収入があり、残金がかなり高額となる。

そのため・・・

（案1）知的部会の会計に戻し、今後の大会（知的部会研究大会・次回九特連宮崎大会）のた

めの資金とする。

⇒⇒今回、積立金がわずかだったため、計画段階で困難な面があった。

今後、消費税アップや会場費の値上げ等も続いていることから、積立金があると安心。

(案2) 大会要項の提案者の研究紀要のページと、集録誌に掲載している分科会の記録のページを抜粋した冊子を作成する。県内の各学校及び、入れ替わりの参加者に配布する。

(15～18万円程度) 配布は新年度。

⇒⇒支出を抑えるために、大会要項は最低部数しか作成していないため、報告等で提出した後、残部がほとんどない状況。今後、提案発表等の担当になったとき等、資料として残しておくといよい。

(事務局) 案1…残金が高額となるが、今回、積立金が少なかったため、予算や大会内容を組み立てる際に大変苦労したので、積み立て金があると安心。

案2…各学校に配付できる冊子を作って還元してはどうか。

残金が当初予算より大きく上回った理由としては想定外の収入もあった。

- ・ 県小中特研より10万円の補助金
- ・ 宮崎市立小中学校を初め、多くの参加者が確保できた。
- ・ 物品販売の実施
- ・ 会場費の値引き(20万円以上)
- ・ 寄付金

(地区理事) 冊子は必要ない。どのくらいの人が見るか疑問である。

学校予算の旅費が少なく、役員として実行委員会の参加回数が多く、他の職員の予算を削ることになってしまっている。実行委員会について、別途旅費として活用できないか。

(司会者) お金を取っておけるとよいので、案1を押ししたい。

(地区理事) 残金が多いのであれば、実行委員から徴収した参加費は返金してほしい。学校の旅費が限られているので、遠方からの実行委員会等への参加は今後厳しくなると思われる。

(司会者) 旅費については、市町村、県立で異なり、一律に支払うことについてはこの場で返答ができない。冊子については制作のための労力のこともあり、作成しないこととしたい。参加費の返金については、補助金が出ている学校、市町村もある。一律に返金は難しい。

(支援学校理事) 残金は、特別会計として取っておくのか、知的部会で取っておくのか

→ 次の知的部会の話し合いで協議する。

(司会者) 旅費の状況を教えてほしい

- 義務制は市町村からの予算。3学期の旅費が不足していた状況。回数の多さを旅費担当から問われたこともあった。
- 規模の小さい学校、遠距離から参加の学校としては、今年度の旅費を本会の出張のため、ほぼ一人で使った形となった。

⑥ 実行委員アンケート（ p.12～ ）別紙参照

⑦ 記念講演保護者アンケート 別紙参照

3 第2回理事会

(1) 平成30年度知的部会事業報告（ p.1～ ）西内T

九特連大会では、理事の先生方に加えて追加のスタッフの方に協力していただき、大会運営をすることができた。御協力ありがとうございました。

（支援学校理事（hp 担当））九特連の2次案内を含む知的部会のホームページを、研修センターが管理するひむかネットのトップページに掲載依頼した。県外の先生方が「九特連」というワードで検索できる方法を今後探るとよい。（アンケートにもあったので。）

(2) 平成30年度知的部会収支報告（ p.3～ ）林T

監査は、3月下旬となり、現段階の中間報告となる。今後通帳の利子の処理等を済ませ、監査を受ける予定。

(3) 今後の知的部会の運営について（ p.5～ ）会長

○ 知的部会事務局、事務局長校長はみなみのかぜ支援学校が引き続き担当、次の九特連宮崎大会（2028年）についても大会事務局はみなみのかぜ支援学校で担当する。

○ 知的部会研究大会を2年に1回の開催として、研究大会担当を地区ごとに持ち回りにするのはどうか。

・事務局担当になった地区の理事が中心に大会運営について立案する。

・知的部会研究大会は約20万の予算。

・研究大会を担当する地区の支援学校及び小中学校校長を知的部会の副会長とする。

（地区理事）知的部会理事の私が提案に対する返事をしていいものか。各地区の会長への周知も必要となる。

（事務局）→今回、知的部会としての案ととらえてもらい、来年度検討、再来年度から研究大会事務局の運営スタートの予定。来年度6月に新体制の理事会があるので、そこで再度、提案予定。

（会長）→21日の県特連会議で、方向性についての提案をする予定。その際、各地区の会長へもお伝えする。

(4) 平成31年度知的部会事業計画案（ p.7～ ）西内T

○ 次年度は今年度同様理事会の開催は2回とする予定。

○（訂正）第一分科会の（提案者）の下に（司会者及び助言者）を挿入。第七分科会の（司会者及び助言者）は削除。

(5) 平成31年度以降の知的部会予算について 林T

☆検討事項☆

○ 知的部会保管の通帳について

現在、3種類保持

A 知的部会用（普段の運用で使用）

B 知的部会特別会計用（県特連補助金（年 2 万円）を九特連大会準備金として積立）

C 九特連「宮崎大会」用

今後、2 種類にしたい。

A 知的部会用（普段の運用で使用）

C 九特連「宮崎大会」用（H30 大会繰越金及び県特連の補助金を含む積立金を保管）

なお、研究大会にかかる予算については、大会事務局校が大会予算用の通帳を作成する。

→事務局提案通り承認

○ 研究大会に関わる予算

・ H 3 3 年度から、1 大会につき 2 0 万円（講師依頼、会場費等）を原則とする。

2 0 万円でまかなえない場合、理事会で協議する。

→今後の、大会運営について決まり次第再度提案。

○ 九特連「宮崎大会」に向けた積立金について

県特連補助金 2 万円

・・・年間 5 万円を準備金とする。

負担金等から 3 万円

→事務局提案通り承認

(6) 平成 3 1 年度理事選出について（ p.9～ ） 西内 T

平成 3 1 年 5 月 1 7 日（金）までの回答をお願いしております。（FAX 送信票）

各地区の御都合により期日に間に合わないときは、連絡をお願いします。

次の理事となられる方へ、引継ぎを確実に行ってください。

(7) 平成 2 9 年度以降の九特連・全特連大会提案者等について（ p.11～ ） 西内 T

○ 担当地区についてローテーションを把握していただき、次年度鹿児島大会については、決まり次第、事務局へ連絡をお願いしたい。

4 連絡

(1) 各係より

九特連大会で使用した付箋やマジックなど、必要数持ち帰りを。

(2) その他

反省会について連絡。

5 閉会行事

(1) 副会長あいさつ（副会長 日南くろしお支援学校長）

事務局、実行委員会の皆さん、細かな準備等ありがとうございました。九特連大会は参加者も多く、内容も充実していました。お疲れ様でした。

南那珂地区では、最近特別支援学校に転入してくる子が多い現状があります。保護者等の特別支援についての理解が難しいなどの課題もあります。今後も課題を共有して深められる会にしてい

きたいと思います。

部会運営については、次年度は一年間研究大会のあり方について検討となりますが、内容をさらに詰めて、2年後の運営に生かしていきたいと思います。

今年度の理事、事務局の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。